

四、中國委員ハ右憲兵ノ所屬團名及待番地點ヲ通知シ且他團ヨリ交替憲兵ヲ派遣スル場合又ハ待番地點カ變更セラルル場合ニハ其ノ都度直ニ其ノ團名又ハ新待番地點ヲ通知スルモノトス

五、上記各項ニ掲記セラレタル通知ハ書面ヲ以テ爲スコトヲ要ス。緊急止ムヲ得サル場合ニハ口頭ヲ以テ爲スヲ妨ケサルモ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ確認スヘキモノトス

六、日本委員ハ本議事録及交換公文中ニ協定セラレタル事項ノ實情ヲ實地ニ付確ムル爲何時ナリトモ派員スルコトヲ得

一九三四年三月二十七日上海ニ於テ二通作ル
共同委員會日本委員

石射猪太郎
小暮 軍治

共同委員會中國委員

甘 海 瀾
俞 鴻 鈞

2 中国による渤海沿岸密輸取締問題

685 昭和8年4月11日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛

百トン未満の船舶による満州諸港および大連
との貿易を禁止する旨の海関告示について

普通第一六五號 (4月19日接受)

昭和八年四月十一日

在青島

總領事 坂根 準三(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

百噸未満汽船ノ滿支貿易禁止ノ件

本件ニ關シ當地稅關ハ上海同様四月八日附ヲ以テ別添寫ノ
通り告示セリ

件 膠海關告示第三九八號

登簿噸數一百噸ニ達セサル汽船及モーター船ノ中國及外國
間ノ直接貿易ニ從事スルコトノ禁止ハ中華民國二十年一月
十七日告示第二百六十四號及ヒ同年二月十八日告示第二百

六十七號ニテ公告セル所ナリ

茲ニ密輸入防止ノ爲滿洲ニ中國海關カ再開セラルルニ至ル
マテ登簿噸數一百噸ニ達セサル汽船及モーター船ノ滿洲諸
港及大連ト中國間ノ直接貿易ニ從事スルコトヲ禁ス
右政府ノ訓令ニヨリ告示ス

監督 袁 思 彥

暫行代理稅務司副稅務司 赤谷 由助

中華民國二十二年四月八日

686 昭和8年6月15日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

密輸防止のため武装監視船運航を青島海關計

画について

青 島 6月15日後發
本 省 6月15日後着

第八四號

支那關稅ノ急激ナル引上ニ依リ主トシテ關東州方面ヨリス
ル砂糖、綿布等ノ密輸入計畫カ從テ増加ス可キハ明瞭ニテ
既ニ其ノ兆アルニ對シ當地海關ニテモ武装監視船ヲ設ケン

トスルヤノ聞込アリ爲念係官ヲシテ尋ネシメタルニ税關監視船タル「モーター、ボート」二隻ハ何レモ檻樓船ナルカ其ノ一隻ヲ修理シタル上「ルース」砲ヲ備付ケ當地ト海州トノ間ニ配スル計畫ニテ日本船ニハ關係尠キ處兎ニ角船首ニ海關ト大書シ税關旗ヲ掲ケ居ルニ付海賊船ト誤認スルカ如キコトハ萬無キ筈ナリト答ヘタル趣ナリ
北平、天津、上海、廣東、芝罘ヘ轉電シ、濟南ヘ暗送セリ
上海ヨリ支ヘ轉報アリ度シ

687 昭和8年6月19日 在芝罘山崎(誠一郎)領事より
内田外務大臣宛(電報)

百トン未満船舶の外国貿易禁止違反として竜口海関により本邦船舶昌源丸抑留について

芝罘 6月19日發
本省 6月26日着

郵合第一號

本官發上海宛電報

第二號

六月十五日朝日本發動機船昌澤丸^{昌源丸}八十二噸ハ砂糖千二百袋

件 雜 十
六月十五日日本人高橋茂所有補機帆船昌源丸登簿噸數四十三噸總噸數八十二噸船長橋野七二郎ハ砂糖千貳百袋源價格約壹万圓ヲ大連ヨリ正規ノ手續ヲ踏ミテ積載シ花房政吉ヲ水案内トシ荷主代理粟田收ヲ搭乘ノ上山東省龍口ニ入港シ同シク龍口ニ於テモ正規ノ手續ヲ踏ミ税關吏ノ船舶臨檢ヲ受ケタル處荷主側ノ荷役開始前突如税關側ニ於テ任意積荷ノ陸上ケヲ行ヒ保税倉庫ニ入レ尙該船ノ機關部々分品若干ヲ取外シ押收シタルニ付訴出ニヨリ早速當館警察署出張員ハ龍口海關ニ就キ其ノ理由ヲ訊シタルニ税關規則ニ基ク百噸未満ノ港則違反船トシテ積荷船舶共沒收ノ見込ニテ抑留セラレタル事判明セリ依テ船主及荷主ニ於テハ大連税關及關東廳海務局等ニ於テ正規ノ手續ヲ了シタル際何等此種禁止規則アル事ヲ承合セス且又前述官憲ニ於テハ既ニ本船出港ニ當リ正規ノ手續ヲ了セルモノニ付本回ハ特ニ之カ釋放アリ度ク當地税關長ニ交渉シタル處税關長ニ於テモ何等不正ノ事實ナキ事ヲ認メ尙又此ノ種事件トシテ初回ニ付我方申出ニ同情アル取計方ヲ考慮セル様子ナルモ何分本年三月三十日及四月十二日ノ兩回ニ亘リテ告示ニテ百噸未満ノ小型船舶帆船ノ入港ヲ禁止シ之ニ違反ノ場合ハ積荷船舶共沒

ヲ大連ニテ積載シ大連及龍口共正規ノ手續ヲ踏ミ龍口ニ入港後税(關)規則ニ基ク百噸未満ノ港則違反船トシテ積荷船舶共沒收ノ見込ニテ抑留セラレタリ右釋放方當地税關ニ交渉セル處税關ニテハ總稅務司ノ指示ヲ待ツテ四日後ニ回答スル筈ナルカ本件ハ大連ノ官憲ニ於テ右規定ヲ無視セル外船主及荷主ニ於テハ何等不正ノ事實ナケレハ今回ニ限り之カ釋放方貴方ニ於テモ總稅務司ニ懇談方御配慮アリタシ支ヘ轉報アリタシ

688 昭和8年6月20日 在芝罘山崎領事より
内田外務大臣宛

竜口海関により抑留された昌源丸の釈放を芝罘税關長に要求について

機密第二三四號 (6月26日接受)

昭和八年六月二十日

在芝罘

領事 山崎 誠一郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

龍口税關ニ抑留セラレタル昌源丸ニ關スル件

收スヘキ旨公示(四月四日附第一三五號並ニ四月十七日附第一五七號參照)セルコトトテ一應總稅務司ノ指示ヲ仰キ其ノ回訓ヲ待ツテ決定シタシトノ事ニテ其ノ期限ヲ四日間ニ定メ何分ノ通知ヲ受クヘキ約束ヲナセリ事情上述ノ通りナレハ上海總領事ニ電報ヲ以テ總稅務司ニ事情説明懇談方申送り置キタリ
尙前記税關規則ヲ關東廳ヘハ當時大臣宛公信寫トシテ送附シ置キタル事トテ充分承知シ居ル筈ナルニ不拘海務局及大連税關ニテ當業者ニ何等ノ注意ヲ與ヘサル模様ナルハ何等カノ錯誤ナルヤ將又被害者側ノ申出ニ不正ノ點アリヤ否別途照會中(六月二十日附關東廳宛機密第三二號拙信寫參照)ニ付申添フ
右報告申進ス
本信寫送附先

公使、北平、上海、天津、青島、牛莊、安東、龍口、關東廳

689 昭和8年6月21日 在芝罘山崎領事より
内田外務大臣宛(電報)

昌源丸抑留に關し芝罘税関長より罰金徴収に
同意方要請について

芝罘 6月21日発
本省 6月26日着

郵合第二號

本官發支宛電報

第二〇號

貴電第三號ニ關シ

(一)密輸入又ハ不正ノ事實無キ事ハ税関長モ明カニ認メ居レ
リ

(二)船主側ハ本件禁止布告ヲ承知セス税関長トシテハ單ニ既
報ノ禁止布告違反ナリト答ヘタリ税関長ニ對シ本官ハ本
件布告實施ノ理由ハ密輸入取締ニアルト雖斯ル布告ノ事
實無ク右布告ハ日支通商條約違反ナリト主張セルニ對シ
税関長ハ支那ハ關稅自主權アレハ右ノ規定ヲ實施シ得ル
ノミナラス其ノ期限ハ一昨年一月二十七日上海ニテ告示
シ更ニ最近右ニ關シ當地ニテモ告示シタルモノナリトテ
讓歩ノ色無ク結局「ファスト、ケース」ナレハ罰金ノ處
置ヲ採ル素振ニテ本官ノ同意ヲ求メタルモ條約關係上今

第四號

貴電第四號ニ關シ

廿二日堀内ヲシテ「メーズ」ニ對シ貴電ノ御趣旨及在芝罘
領事ノ調査ニ依レハ船主及荷主ニ於テ密輸其他ノ不正ナキ
コトヲ税関長モ充分認メ居ル旨並ニ我方條約上ノ立場ヲ說
明シタル上船舶ノ解放及荷物ノ輸入ヲ許可スル様配慮方申
入シメ且私見トシテ本件解決如何ハ今後北支諸港ニ於ケ
ル對滿稅關關係ニ影響スルコト鮮カラサルヘシト思考スル
旨ヲ附言セシメタル處「メ」ハ本件措置振ニ付南京政府ノ
訓令ヲ受クルヲ要シ其以前意見ヲ表示シ難シト述ヘ居タル
趣ナルカ「メ」ノ希望ニ依リ前記ノ事情及我方ノ希望ヲ私
信ニテ申出ツルコトトセリ
大臣、芝罘ヘ轉電セリ
滿ヘ轉報アリタシ

件 (付記)

十 雜 第一四號

關東庁 6月27日後発
本省 6月28日前着

暫ク考慮スヘキ旨ヲ答ヘ再會ヲ約シタリ税関長ハ罰金ニ
同意スレハ其ノ旨更ニ總稅務司ニ電報シ左モ無クハ規則
ニ依リ沒收スル外無シトノ口吻ヲ洩ラシ居タリ

本電本官發上海宛電報第二號ト共ニ外務大臣ニ暗送セリ

上海ヘ轉報アリタシ

關東長官ニ轉電セリ

690 昭和8年6月22日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

抑留中の昌源丸を解放すべき旨メーズ總稅務

司に申入れについて

付記 六月二十七日發武藤關東長官より内田外務大

臣宛電報第一四号

輸出入手續きに不備がない昌源丸の即時釈放
を中国側に要求方有吉公使宛依頼について

上海 6月22日後発
本省 6月22日後着

第三五九號

本官發關東長官宛電報

本官發支宛電報

第四號

大阪在籍發動機船昌源丸(八十二、一二噸)ハ六月十四日龍
口向砂糖一、二〇〇袋ヲ積載シ大連稅關、海務局ニ對シ正
規ノ手續ヲ完了シ大連發翌十五日龍口着同地稅關ニ對シ手
續ヲ爲シタル處稅關側ニ於テハ百噸未滿船舶ノ外國貿易禁
止違反ナリトシ稅關ノ手ニ依リ積荷ヲ陸揚シ保稅倉庫ニ入
レ同船ノ機關部ノ部分品ヲ取外シ押收シ事件ヲ芝罘稅關ニ
移シ同稅關ハ更ニ上海總稅務司ニ處置方請訓セル趣ナル處
同船ハ未タ支那側ノ禁令アルヲ知ラス且輸出入トモ稅關ニ
對シ正規ノ手續ヲ了シタルモノナレハ支那側カ本件禁令ヲ
發シタル理由ナリト稱スル密輸入ヲ企テタル次第ニモ非ス
然ルニ支那側カ元來日支通商條約ニ違反シ居ル禁令ニ基キ
我カ商船ニ依ル善意ノ貿易ヲ阻害スルハ面白カラスト思考
セラルルニ付同船積荷ハ正規ノ輸入稅ヲ納付シ輸入セシメ
船舶ハ直ニ解放スル様支那側ニ對シ御交渉ヲ請フ
芝罘ニ轉電セリ

691 昭和8年7月8日 在芝罘山崎領事より
内田外務大臣宛(電報)

昌源丸抑留事件は罰金支払いで解決の見込みについて

付記 七月十五日発在芝罘山崎領事より内田外務大

臣宛電報第三〇号

昌源丸は罰金支払いの上解放について

芝罘 7月8日後発

本省 7月8日後着

第二八號

本官發支宛電報

第二四號

往電第二一號ニ關シ

税關長本八日本官ヲ來訪シ今後ハ規定通ニ取扱フヘキモ今回限り砂糖ノ輸入税ヲ支拂ヒ三百弗ノ輕キ罰金處分ニテ本件ヲ解決シタキ意向ヲ漏シタルニ付種々談話ノ末一百弗位ノ金額ナラハ本人ニ意向ヲ傳フヘキ旨ヲ答ヘタル處税關長ハ之ヲ承諾スル意向ナルニ付右ニテ解決ノ方法ヲ執ル考ナリ

大臣、關東廳へ轉電セリ

(付記)

芝罘 7月15日後発
本省 7月15日後着

第三〇號

本官發支宛電報

第二六號

昌源丸事件ハ往電第二四號ノ通り船主側ヨリ銀一百弗ヲ收メシメテ解決同船ハ大連ニ向ケ出航セリ

外務大臣、關東廳長官へ轉電セリ

692 昭和8年7月12日 在芝罘山崎領事より
内田外務大臣宛

税關長よりの關東庁による密輸嚴重取締方要

請および邦人当業者に港則周知方意見具申

機密第二五九號

(7月19日接受)

昭和八年七月十二日

在芝罘

領事 山崎 誠一郎(印)
外務大臣伯爵 内田 康哉殿
昭和八年七月十二日附關東廳長官宛機密第四九號信寫送附

件名

小型汽船及漁船取締方ノ件

機密第四九號

昭和八年七月十二日

在芝罘

領事 山崎 誠一郎

關東廳

長官 武藤 信義殿

小型汽船及漁船取締方ノ件

當地税關長ヨリ本官ニ對シ最近臨海丸、昌源丸事件ヲ初メ小型汽船ノ密輸入乃至ハ港則違反問題等頻發シ現ニ昨年中ニ於ケル密輸額ハ支那側ニ於テ發見取押ヘタルモノノミニテモ既ニ五百万兩^兩ヲ越ヘ居ル由ニテ右ハ熱^熱レモ邦人ノ隱レタル損害タルハ當然ニシテ尙又何等ノ誤解ニヨルモノカ本同別電ノ如キ傷害事件迄モ發生セル實情ニ鑑ミ既ニ大連方

693 昭和8年7月13日 在芝罘山崎領事より
内田外務大臣宛(電報)

電口方面における海關監視船と本邦漁船との
抗争事件について

面ニ於テハ嚴重ニ之等ヲ取締ラレ居ルナラムモ今後一層取締ヲ嚴重ニセラレタシト懇請シ之カ傳達方ニ付希望申出タル
就中卑見ニヨルモ昌源丸事件ニ關聯スル百噸未満船舶入港禁止港則ノ如キハ根本問題トシテハ差詰メ妥協ノ途ナク漸ク今回限り百弗ノ罰金ニテ解消シタルモ今後同一問題惹起セル場合ハ斷然港則ヲ適用スル意向税關側ニ確定セルヲ以テ邦人關係者ニ右港則ヲ知悉セシメサル以上船舶關係者ニ連續的ニ損害ヲ蒙ラス結果ヲ來スヘキニ付右等ニ關シ可然御配慮相煩シ度此段申進ス。

本信寫送附先

外務大臣、駐滿大使、公使、北平、青島、天津、安東、牛莊

芝罘 7月13日前発
本省 7月13日後着

第二九號

本官發關東長官宛電報

第九號

所用ノ爲稅關ニ使ヒセル内藤ニ對シ當地稅關長ノ語リタル所ニ依レハ九日午後七時ヨリ八、九時迄ノ間劉家旺東方五里解宋營北方約一哩ノ地點(當地ト登州府ノ中間)ニ於テ綠黃色ノ約三、四十噸ノ日本漁船漁撈中ナリシ爲海關監視船タル舢板ハ之ヲ臨檢セントセシ處該船ノ日本人(約十名乗組中ニハ小供一、二名同乗シ居タル模様)頑強ニ之ヲ拒ミ遂ニハ双方口論トナリタル處該日本船ハ逃レントスル舢板ヲ追撃沈没セシメ水中ニ在ル舢板乗組海關員四名及船夫二名ニ對シ石及木片ヲ以テ強打溺没セシメテ逃走シタリト右ハ六名中助カリタル一海關員ヨリ(ノ)報告ナリト云フ依テ中央政府ニ報告スル筈ナルモノ一應領事ニ傳ヘラレ度シトノ事ナリ

右ハ事件關係(者)タル海關員ノ報告ヲ根據トスルモノニシテ真相判明シ難キモ當地從來ノ實情ヨリシテ有り得ヘキ事

諸公機密第六八號

昭和八年八月十六日

在芝罘

領事 山崎 誠一郎

關東廳

長官 菱刈 隆殿

日本漁船ノ支那側ニ進出セサル様取計方ノ件

當地地方ニ百噸未満船舶ノ外國及滿洲國ヨリ出入ヲ禁止セラレ違犯者ハ船貨共ニ沒收セラルル件ニ就テハ既ニ再三申進メ置キタル處昨日又復大連乃木町二名組西宮丸九噸池田順松力入港シタルニ因リ其來意ヲ訊シタル所支那領海ニ於テ漁業ヲ爲シ度ク就テハ之ニ要スル支那側ノ手續ヲ履ム考ナリト願出タルモ諸般ノ事情ニ鑑ミ不可能ナル旨申聞歸船セシメルカ間モナク當地稅關ニ於テハ之ヲ港則違反トシテ差押タル趣再ヒ池田ヨリ願出ニヨリ本官直ニ稅關長ヲ訪ヒ本件ハ稅關告示ノ使用字句タル TRADE ニ關係ナキ事情ヲ篤ト説明主張シ稅關側ハ支那領海密漁云々漁業貿易云々ノ言辭ヲ並ヘ居リタルモ攜帶漁類モ極メテ少量ニテ結局再ヒ入港セサルコトヲ注告スルコトシ即時解放セシメリ

ト思料セラルルニ付貴地方へ逃走セル右(脱)探查セラレ度シ

安東、牛莊、支、大臣へ轉電シ滿、北平、天津、青島へ暗送セリ

694 昭和8年8月16日 在芝罘山崎領事より
内田外務大臣宛

中国側による港則違反船舶の抑留に鑑み本邦漁船に対し中国領海および中国諸港への出入りを控えるよう周知方稟請

機密第二九二號

(8月30日接受)

昭和八年八月十六日

在芝罘

領事 山崎 誠一郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和八年八月十六日關東長官宛機密第六八號信寫送附

件名

日本漁船ノ支那側ニ進出セサル様取計方ノ件

元來本件告示乃至領海問題ハ漁業條約其ノモノ、立前其他ノ見地ヨリ相當複雑ナル問題タルヘキモ如上問題ノ惹起毎ニ何レニセヨ實際問題トシテ支那側ニ於テハ其都度先ツ差押ヘル機關備ハリ結局邦人各當事者ハ損害ヲ蒙ル他ナク殊ニ砂糖人絹其他日支人ニ依ル雜貨密輸入事項近來頻繁ニテ稅關側ニハ沿岸各地ニ手廣ク監視逮捕線ヲ張り且ツ過般報告ノ海關監視員五名カ關東洲側日本漁船ト看做サルルモノ等ヨリ殺害セラレタル事件以來一層過敏トナリ通航船隻ニハ漁船商船ノ區別ナク小形船舶ヲ目標トシ近海ヲ嚴重警戒セル實情ナルヲ以テ將來海洋ノ位置ト其他ノ條件次第ニテハ邦人漁船ニ對シ或ハ前記海關員被害ニ類似スル邦人ノ被害ナキヲ得難キ狀況ナルヲ以テ此種漁船ニモ支那領海ニ進出セサルハ勿論中國港ニ出入セサル様關係者へ徹底的ニ知悉セシムル爲メ重ネテ嚴達方御配慮相成度

本信寫送附先

外務大臣、公使、北平、青島、天津、上海

695 昭和8年8月16日 在南京日高總領事より
内田外務大臣宛

竜口方面での本邦漁船員による中国海關監視員暴行致死事件に關し中国外交部抗議について

機密第四七六號

(接受日不明)

昭和八年八月十六日

在南京總領事 日高 信六郎

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和八年八月十六日附機密第二七一號有吉公使宛公信寫送付

件 名

龍口地方ニ於ケル日本漁船ノ不行跡ニ關スル件

機密第二七一號

昭和八年八月十六日

在南京總領事 日高 信六郎

在中華民國

特命全權公使 有吉 明殿

龍口地方ニ於ケル日本漁船ノ不行跡ニ關スル件

本件ニ關シ外交部ヨリ送付越シノ貴館宛八月十二日附覺書一通別添轉送ス

本信寫送付先

大臣 北平 天津 青島 濟南 芝罘

(別 添)

拜啓陳者東海關龍口分關ヨリ財政部ニ致セル報告ニ據レハ本年七月九日午後七時^同分關所轄劉家旺見張所ノ東方四五哩沖合約一湮ノ地點ニ小蒸汽船一隻停泊シタルヲ認メタルヲ以テ該見張所主任張守範ハ舢板一隻ヲ傭入レ核稅員丁心源、巡視員張香九、湯肇基及船夫四名ヲ率^レ檢査ノ爲同地點ニ至リタル處右汽船乗組員ハ船長以下水夫等悉ク日本人ナルコト判明シ檢査セントシタルカ強硬ナル拒絕ニ遭ヒ勢ニ辟易シタル張主任ハ職務ヲ執行スル術ナク不已得船夫ニ歸還ヲ命シタル由ニ有之候然ルニ該汽船ハ突如機關ヲ動カシ舢板ヲ追走シ來リ逃避ノ暇ヲ與ヘス後部ニ激突シタル爲舢板ハ忽チ顛覆シ乗員全部海中ニ墜落セシメラレ候此ノ時汽船上ニ在リタル日本人ハ更ニ石塊、櫓櫓等ヲ以テ水中ノ者ヲ目蒐ケテ投擲シ船ニ近付ケシメス全員溺死シタルヲ見届ケタル後船首ヲ廻シテ逃走致候此ノ椿事ノ結果被害者タル主任張守範、巡視員張香九、湯肇基及船夫二名ハ溺死シ

件 十 雜
未タ屍体ヲ引揚クルニ至ラス、核稅員丁心源ハ頭部ニ石塊ニ依ル打撲傷ヲ受ケタルモ辛ウシテ一枚ノ木片ニ縋リ付キ浮游中翌朝海岸ノ漁夫ニ救助セラレ九死ニ一生ヲ得、又他ノ船夫二名ハ游泳巧ナリシヲ以テ解宋營迄泳キ着キテ陸上ニ這上リ危ク難ヲ免レ候、急報ニ接シ同分關ヨリ直ニ天橋口見張所主任曲樹楨ニ命シ急據檢査員徐福申ヲシテ私服警邏隊ト同行シテ現場ニ赴キ偵査セシムルト共ニ他面同見張所監査員俞承之ヲモ急派シ踏査ヲ遂ケシメ候、十一日俞監査員ハ丁心源ト相携ヘテ龍口ニ歸着シタルカ丁ノ頭部ニ受ケタル負傷頗ル重態ニシテ直ニ醫院ニ送り加療中ニ有之候、該日本船舶ハ既ニ大連方面ヘ姿ヲ晦セルモノノ如ク不取敢十一日龍口駐在日本領事ヲ往訪シ口頭ヲ以テ椿事ノ狀況ヲ説明シ關東廳ニ犯人ノ逮捕方轉達アリ度旨並核稅員丁心源ノ目撃シタル處ニ據レハ該日本船ハ淺綠色ニ塗ラレ船上ニ日本兒童ノ居タル旨ヲモ申入レタル處同領事ハ即座ニ遺憾ノ意ヲ表シ且加害船舶及犯人ノ取押方ニ關シテハ關東廳ニ通牒スヘキ旨ヲ承諾セラレ候、以上要約スルニ本事件ハ見張所員四名及舢板船夫二名ノ死傷者並拳銃二挺及舢板一隻ノ損害ヲ生シタルモノニシテ拳銃ハ當時巡視員カ護身用ト

シテ携帯セルモノナルモ同人等ハ全ク事件ヲ豫期セサリシト日本船舶カ突如故意ニ追突シタル事情等ノ爲遂ニ發砲シ自衛ノ途ヲ講スル違ナカリシモノニ有之候、尙近來龍口附近一帶ニ於テハ中國領海三海里内ニ侵入シ魚獲ニ從事スル日本船舶屢々見受ケラルル處本件加害船舶モ或ハ之ト同様境界ヲ越エテ侵入セル密漁船ナルヤノ疑有之候就テハ事情御取調ノ上可然御措置相仰度云々トノ由ニテ右ノ趣今般財政部ヨリ當部ニ通牒越ノ次第有之候
査スルニ日本船舶カ龍口地方中國領海内ニ於テ海關ノ檢査ニ服セス却テ故意ニ海關ノ舢板ニ追突シテ沈没セシメ剩ヘ海中ニ漂流セル海關吏員ヲ救助セサルノミナラス之ニ暴行ヲ加ヘテ溺死者六名ノ多キヲ出サシメタルハ實ニ兇暴ノ限ヲ盡シタルモノト認メラレ候、就テハ溺死海關吏員及舢板拳銃等ノ損害ニ對スル一切ノ要求ハ暫ク之ヲ保留スルコトトシ不取敢本件一應御取調ノ上犯人ノ逮捕並嚴重處分乃至急關係官憲ヘ御飭令相成度尙將來日本船舶ハ中國海關章程ニ從ヒ檢査ヲ受ケ其ノ領海内ニ於テ事端ヲ醸ササル様殊ニ中國ノ領海ヲ侵犯スル日本密漁船ノ如キニ對シテハ一層嚴重ナル御取締ヲ加ヘラレ以テ兩國間紛糾ノ發生ヲ防止致度

結果何分ノ御回答相煩度此段得貴意候 敬具
民國二十二年八月十二日

編 注 別添覚書中国文は省略。

696 昭和8年10月13日 在天津栗原總領事より
広田外務大臣宛

関東州よりの密輸入防止ならびに中国関税率
引下げに関する天津日本人商業会議所の請願
書送付について

機密九三二號

(接受日不明)

昭和八年十月十三日

在天津總領事 栗原 正

外務大臣 廣田 弘毅殿

密輸入防止ニ關スル請願ノ件

當地日本人商業會議所ヨリ砂糖、人造絹糸等ノ當地地方密輸
入ハ支那官憲ノ取締ニ依リ一時稍衰ヘタル形跡アリシモ客
年九月滿洲ニ於ケル支那海關閉鎖後輸入貨物ハ事實上二重
課税ヲ負擔スルコトナリ更ニ本年五月ヨリ支那側ノ急激

ノ次第アリタリ本件請願ニ關シテハ同會議所ヨリ直接請願
書寫送付濟ノ筈ナルモ爲念右一部茲ニ添附ス委曲右ニテ御
了知ノ上何分カノ御考量有之度此段申進ス

本信寫送附先 在中公使 在滿大使 奉天 上海 北平

南京 關東長官 上海商務參事官

(以上別紙添付省略)

697 昭和8年10月27日 在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

山海關方面における本邦商船の貨物無通關陸
揚げに対する中国外交部抗議について

南京 10月27日後発
本省 10月27日後着

第五五七號

本官發支宛電報

第五七八號

二十五日外交部ハ係官ヲ本官ノ許ニ派シ左記要領ノ「メモ」
ヲ添ヘ右事情本官ヨリ貴公使ニ取次キ大臣宛拙電第五一〇
號ノ件ト共ニ至急圓滿解決方申出アリタリ

ナル高關税率實施セラルニ至リタルカ爲之カ影響トシテ砂
糖、人造絹糸、綿布、ゴム靴、海產物、アルコール、其ノ
他雜貨ノ密輸入再ヒ擡頭逐日旺盛トナリ此等密輸品ハ天津
商團内タル奧地一帶ニ充滿シ遂ニハ天津市場ニ迄モ逆流シ
來ル實勢ニテ當地ノ邦人當業者ハ事實上取引杜絶ノ現況ナ
ルカ一方當地支那砂糖商同業者ニ於テモ之ニ依ル奧地取引
停頓ノ爲メ關係當局ニ對シ砂糖密輸取締請願書ヲ提出セル
事實アル處此等密輸防止ニ付テハ當地海關ニ於テモ夙ニ
種々取締辦法ヲ講シ居ルモ其ノ實績ヲ舉クルニハ相當困難
ノ實情ニアルモノノ如ク旁々當地地方ニ於ケル前記商品市場
ハ密輸入品ノ爲メ攪亂セラレ本邦品販路擴張ノ長計ヨリ觀
テ甚タ遺憾ニシテ延テ邦人ノ海外發展上多大ナル障礙ヲ受
クルコトトナルヘキ趣ヲ以テ之カ取締ヲ一層嚴重ニ勵行セ
ラルル様各關係當局ニ懇請方申出ノ次第アリタリ尙本件問
題ハ畢竟支那輸入税カ法外ニ高率ナルニ起因スルモノニテ
支那側ニ於テモ之カ取締ニ巨額ノ經費ヲ要スルノミナラス
關稅收入ニモ重大ナル影響アルヘキニ依リ密輸入カ採算上
不可能トナル程度迄前記商品ノ稅率ヲ低減スルヲ最モ得策
トスヘキニ付此點支那側ニ交渉方取計ハレ度趣併セテ願出

秦皇島稅務司ノ報告ニ依リ總稅務司ヨリ外交部宛左ノ通り
申越アリタリ本年八月十五日日清汽船昌源丸(日本商船旗
掲揚)大連ヨリ入港、山海關南海方面ヨリ大量有稅貨物ヲ無
通關陸揚シタルニ付右ニ對シ秦皇島稅務司ハ天津日本總領
事ニ書面ヲ以テ抗議シ置キタル處未タ回答ニ接セス尙右汽
船ハ六十噸ナリト届出ナリシカ最近ノ調査ニ依レハ百噸
以上ナルコト判明シタル等本件圓滿解決不能ナルニ於テハ
勢ヒ規則ニ照シ同船ノ中國貿易ヲ禁止スルノ已ム無キコト
トナル可ク秦皇島ヨリ右ニ關シ伺出テ居ル處日本商民ノ山
海關ニ於ケル累次ノ納稅拒絕問題未解決ニ加ヘ今又昌源丸
ノ無通關荷揚ヲ見タルハ遺憾ナリ云々就テハ右至急善處方
御配慮相煩度シ
「メモ」寫郵送ス
大臣、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

698 昭和8年11月16日 在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

山海關方面における本邦商船の貨物無通關陸
揚げおよび日本側の税関検査阻止に対する中

外交部抗議について

南京 11月16日後発
本省 11月17日後着

第六〇四號

本官發支宛電報

第六二三號

往電第五七八號ニ關シ

今般外交部係官ヨリ「メモ」ヲ添へ左ノ通り申出アリタリ
又復秦皇島稅務司ノ報告ニ基キ總稅務司ヨリ左ノ通り申出
アリタリ

十月二日日本汽船春海丸(大連滿洲汽船會社所有船ニシテ
五十噸ヲ出テサル小汽船ナル由)大連ヨリ山海關分局管内
ニ入港シ砂糖、醬油、鹽魚、「ストープ」等多數貨物ヲ無通
關陸揚シ納稅ハ既ニ滿洲國ニ於テ了シアリト稱シ檢査ニ應
セス尙又曩ニ問題トナリ未解決ノ昌源丸本月三日長城東一
英里半ノ地點ニ碇泊シ日本酒、麥酒等計六百三十三個ノ貨
物ヲ無通關荷揚セリ之カ檢査ヲ行ハントスルモ日本官吏ノ
干涉阻止今尙行ハレ如何トモ爲シ得ス春海丸ノ如キモ規定
ニ依リ拘留スヘキモノナルカ是亦職務遂行困難ナリ斯シテ

第九五號

南京發支宛電報第六二三號ニ關シ

滿洲輪船公司所有汽船春海丸ハ明治四十五年五月北京ニ於
テ調印セラレタル大連海關設置及内水汽船航行ニ關スル協
定ニ依ル正式手續ヲ履行シ大連ニ於テ成規ノ稅金ヲ全納ノ
上出港シ山海關ニ於テハ國境タル長城線ノ冲合ニ碇泊シ滿
洲國稅關ノ檢査ヲ經タル上陸揚ケシタルモノニシテ何等密
輸ヲ計リタルモノニアラス然レ共現在ハ各船トモ長城線外
滿洲國領域内ニ於テ荷卸ヲ爲シツツアルヲ以テ何等違法ノ
行爲ナク又支那稅關ノ干與スヘキ限ニアラス
大臣、支、北平、天津、南京へ轉電セリ

(付記)

機密公第一八號

昭和九年一月十五日

在中華民國

特命全權公使 有吉 明

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和九年一月十五日附在南京日高一等書記官宛機密公第一〇

密輸入ハ堂々ト行ハレ關稅ハ損失ヲ蒙リツツアリ至急御交
涉解決ヲ計ラレ度シ依テ外交部トシテハ前回同様今同モ正
式公文ノ發送ヲ見合セ「メモ」ヲ添へ茲ニ依頼スル次第ナ
リ至急公使ヲ通シ適當御措置ヲ煩度シ
「メモ」寫郵送ス

大臣、北平、天津、滿へ轉電セリ

699

昭和8年11月23日

在錦州後藤(祿郎)領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

山海關方面での本邦商船の貨物陸揚げは長城
線沖合の満洲国側で行なったため中国側の関
与外との見解について

付記

昭和九年一月十五日付在中国有吉公使より広

田外務大臣宛公信機密公第一八号

右見解外交部に通告方について

錦州 11月23日後発

本省 11月23日後着

第九八號

本官發滿宛電報

號信寫送付

山海關附近ニ於ケル昌源丸及春海丸ノ無通關荷揚ニ關
スル件

機密公第一〇號

昭和九年一月十五日

在中華民國

特命全權公使 有吉 明

在南京

一等書記官 日高 信六郎殿

山海關附近ニ於ケル昌源丸及春海丸ノ無通關荷揚ニ關
スル件

本件ニ關シ別紙「メモ」外交部ニ御傳達相成度尙其際貴官
ヨリ本件ニ關スル在錦州後藤領事代理發在滿大使宛電報及
在天津田中總領事代理發本使宛機密第三八七號ノ趣旨ヲ綜
合シ適宜説明ヲ加ヘラレタル上本件ノ如キハ華北ニ於ケル
停戰區域ニ關スル諸問題ノ一般的解決ト共ニ自國消滅スヘ
キ問題ナル旨ヲ附言シ置カレ度シ

本信寫送付先 外務大臣 北平 天津 駐滿大使

一、昌源丸ニ關スル件

本船ハ本年四、五月以降前後數回ニ亘リ大連ヨリ山海關南海ニ航行シ其ノ積荷ヲ長城線ノ東側滿洲國領域内ニ陸揚セルコトアルモ右積荷ニ關シテハ出航前其ノ都度大連ニ於テ滿洲國稅關ノ正規手續ヲ了シ居レル趣ナリ
ニ、春海丸ニ關スル件

本船ハ本年十月一日大連ヨリ山海關南海ニ航行シ同二日同所ヲ拔錨セルカ本船ノ碇泊地點及荷揚地點ハ共ニ長城線ノ東側滿洲國領域内ニシテ其ノ積荷ニ關シテハ昌源丸同様大連ニ於テ滿洲國稅關ノ正規手續ヲ了シ居レル趣ナリ

700 昭和8年12月26日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

本邦警察官および密輸嫌疑の本邦商船乗組員
に対する青島海關員の発砲・暴行事件に關シ
て同海關に嚴重抗議について

青 島 12月26日後發
本 省 12月26日後着

第二四九號(至急)

本月二十四日人絹四百餘個ヲ搭載シテ大連ヨリ入港セル本邦發動汽船遼運丸(一四九噸乗組員日本人五、支那人四)ハ密輸入ノ嫌疑ヲ受ケ膠海關ニ「デテイン」サレタルカ(詳細別途報告)荷主側ニ於テハ右ハ密輸入ヲ企テタルモノニ非スト主張スルニ依リ當館ニ於テハ其ノ證據ノ提示ヲ求メタル處船長ハ自室ニ大連稅關發給ノ關係書類アリ右ヲ一覽セハ關係一切明白ナル可シトノコトナリシニ付二十五日午後四時過當館警察官三名ハ上陸中ノ船長並船員ヲ伴ヒ舢板ニテ稅關沖ニ繫留中ノ本船ニ至リ船長及船員ヲ乗船セシメタル上警察官ハ其ノ儘舢板ニ留マリ船長ヨリ書類ヲ受取ルト同時ニ直ニ歸途ニ就キタルカ暫クシテ(脱?)遼運丸ニ引返ス可シト呼掛ケタルニ依リ我方警官ハ自分等ハ日本ノ警察官ニ付其ノ必要ナシト答ヘ其ノ儘歸路ヲ急キタルニ其ノ間海關ニテハ「モーター、ボート」ヲ繰出スヤノ氣配見ヘ支那人船頭カ恐ヲナシ前進ヲ肯セサルニ至リシ爲已ムナク一時引返スコトトシ遼運丸ノ前方約三千米ノ個所ニ達シタルニ突如同甲板ニアリタル稅關監視員兩名(一名ハ外人、一名ハ支那人)ヨリ實彈ヲ以テ「ピストル」三發ノ射撃ヲ受ケ

十 雜 件

タリ幸ヒ彈丸ハ海中ニ落チ我方ニハ何等ノ實害ハナカリシモ危險極マリナカリシニ付我方警官ハ支那語ニテ日本警察官ナリト呼號シツツ漸ク海岸線ニ辿リ着キ一應海關ノ日本人職員ニ成行ヲ告ケタル上引揚ケ來レリ(其ノ間遼運丸船中ニ於テハ船長以下日本人船員ハ支那人監視員ヨリ打ツ蹴ルノ暴行ヲ受ケ機關長及油差ノ兩名ハ各々治療ニ週間ヲ要スル打撲傷ヲ受ケタリ)
⁽²⁾密輸嫌疑其ノ他ノ點ハ別トシ白晝稅關吏カ我方警察官ニ對シ發砲スルカ如キハ棄テ置キ難キ重大事ニシテ嚴重糺明ノ要アルノミナラス一步措置ヲ誤ランカ左ナキダニ海關ニ對シ惡感ヲ高メツツアル我在留民ノ激昂ヲ買ヒ勢ノ趨ク處如何ナル不祥事ヲ惹起スルヤモ計ラレサリシニ付本官ハ夜中乍ラ直ニ赤谷副稅務司ノ來訪ヲ求メ事態ノ極メテ重大ナルヲ説明ノ上最少限度
(一)稅務司自身ノ陳謝
(二)發砲セル吏員ノ嚴重ナル處罰
(三)將來ノ保障
ノ三點ヲ實行スルニアラサレハ本件ノ解決ハ絶對不可能ナル旨稅務司ニ傳達方申聞ケ置キタル處本二十六日早朝稅務

司「マイヤース」ハ赤谷副稅務司ヲ帶同シテ正式ニ本官ヲ來訪シ本同ノ發砲事件ニ關シテハ率直ニ海關側ノ非ヲ認ムルモノナリト前提シ
(一)自分ノ豫メ關知セシ事ニハアラサルモ部下ノ此ノ重大ナル失態ニ付衷心遺憾ノ意ヲ表スト述ヘ
(二)關係者兩名ハ早速海關内部規定ニ照シ嚴重處分スヘク更ニ
(三)將來此ノ種事件ノ再發防止ニ至リテハ自分ニ於テ事件ノ擴大防止ニ力添ヘ願度シ
ト眞實表ニ現ハシテ繰返シ陳謝ノ意ヲ申出テタルニ依リ本官ハ當地ノ如キ土地柄ニテハ此ノ上トモ當領事館員ト稅關吏トノ密接ナル協力ヲ必要トスルニ拘ラス本件ノ如キ發生ヲ見タルハ全く論外ノ不祥事ニシテ將來再發ヲ見ルヘカラサル事稅務司ノ充分認メラルル通ナルカ本官トシテハ稅務司ノ誠意ヲ諒トシ早速本省ニ報告スルト共ニ及フ限り將來ノ「リアクション」ノ防遏ニ盡力スヘシト應酬シ一應會見ヲ終リタリ
⁽³⁾右ノ如ク稅務司ハ無條件ニ稅關側ノ手違ヲ認メタルカ前後ノ事情ヲ綜合スルニ發砲者ハ監視人ノ聯絡宜シカラサリシ

爲日本警察官タルコトヲ充分認識セス一種ノ「ギヤング」ト即斷シテ威嚇的ニ發砲シタルモノノ如ク關係邦人ハ稅務司ト入レ違ヒニ自ラ警察署ニ出頭シ署長並署員ニ對シ陳謝セル趣ナリ

本件ハ事頗ル重大ナルヲ以テ解決條件等豫メ請訓ノ上措辨スヘキ處前記ノ如ク解決ノ遲延ハ在留民ノ團體的行動ヲ誘發スルハ惧アリ一度在留民ノ運動勃發センカ市黨部事件ノ二ノ舞ヲ繰返ス(ニ)至ルヘク成行頗ル憂慮セラレ到底請訓ノ暇無カリシニ依リ已ムヲ得ス急速右様ノ取計ニ出テタル次第ナルニ付テハ當地特別ノ事情篤ト御含ノ上本件ニ對スル本官ノ措置振り改メテ御追認仰度右報告旁稟請申上ク

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

支、北平、南京、濟南、天津、漢口、廣東、芝罘ヘ轉電セリ

701 昭和8年12月(26)日

在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

密輸取締に關連した本邦人と海關側の紛擾に
鑑み意思疎通のため下級税関職員に邦人採用

「發砲事件」ノ顛末ヲ報告スルニ當リテモ貴總領事ノ好意アル態度ヲ充分申添ヘ同時ニ日本人新規採用方ノ意見ヲ具申スヘケレハ願クハ貴總領事ヨリモ公使館ヲ通シテ「ブツシユ」セラルルコトト致度左スレハ此ノ際ノコトトテ實現不可能ニモアラサルヘシト内話セリ就テハ總稅務司邊ニ於テモ既ニ青島稅關カ對日本人關係ニ於テ相互危險ニ頻シ居ルコトハ重々承知セルヤニ察セラルルニモ鑑ミ本官トシテハ此ノ機會ヲ逸セス極力右様取運ハシメ度キ考ナル處右ニ

方稅務司に申入れについて

青島

發

本省 12月26日後着

第二五〇號

本官發支宛電報

第二二八號

本官發大臣宛電報往電第二四九號ニ關シ

本官稅務司ト會見ノ節最後ニ本官ヨリ本事件ノ如キハ畢竟當地稅關側ト日本人トノ聯絡宜シカラサル結果ナルニ顧ミ嘗テモ申出タル通此ノ際「ローカル、エンプロイメント」ノ「アウトドア」、サブオルデネート」トシテ日本人少クモ四、五名ノ雇入レ方篤ト考慮アリタク今日當地ニハ日本人稅關吏十數名アルモ殆ト皆上級者ニシテ且多クハ「インドアー」ナル爲從來トモ動モスレハ在留日本人(人)トノ間ニ意思ノ疎通ヲ缺キタル事例アリトテ說得ニ努メタル處「マイヤース」モ右ハ今日ノ制度上實現頗ル困難ナルモ當地ノ實情ニ照シ下級吏員日本人ヲ採用スルコトハ通譯ノ意味ニ於テモ甚タ「ユウスフル」ニテ對日本人關係改善ニ效果アリト認メラルルニ依リ今回自分ヨリ總稅務司ニ對シ本件

對シ特ニ異議ナキ限り然ルヘキ方法ヲ以テ當地稅關ニ下級ノ「エキザミナー」及監視人トシテ少クトモ四、五名ノ日本(人)ノ採用ヲ見得ル様情勢促進方何分ノ御力添相煩シ度シ

前電第二二九號ハ第二四九號ノ誤リ

冒頭往電ノ通轉電シ芝罘ヘ暗送セリ